

米国農務省穀物等需給報告(2019年10月10日発表のポイント)

令和元年10月11日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、10月10日(現地時間)、2019/20年度の6回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。
－2019/20年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 26億5,968万トン(対前年度比 1.3%増)
- ② 消費量: 26億6,317万トン(対前年度比 0.8%増)
- ③ 期末在庫量: 7億9,690万トン(対前年度比 0.4%減)
期末在庫率: 29.9%(対前年度差 0.4ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、豪州で乾燥の影響が継続していること等から下方修正されたものの、EU等で上方修正されたこと等から前年度を上回る見通し。一方、消費量は米国の飼料用需要の減少等から減少する見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度より増加する見通し。

- ① 生産量: 7億6,523万トン(対前年度比 4.8%増)・・・EU、ウクライナ、インド、米国等で増加、カザフスタンで減少
- ② 消費量: 7億5,511万トン(対前年度比 2.5%増)・・・EU、中国、インド等で増加
- ③ 期末在庫量: 2億8,780万トン(対前年度比 3.6%増)・・・中国、インド、EU等で増加
期末在庫率: 38.1%(対前年度差 0.4ポイント増)

とうもろこし : 世界の生産量は、ロシアで増産となるものの、米国、エジプトで減産となること等から前年度を下回る見通し。世界の消費量は前年度より減少する見通し。世界の生産量が消費量を下回ることから期末在庫量は減少する見通し。

- ① 生産量: 11億401万トン(対前年度比 1.7%減)・・・南ア、ロシア等で増加、米国、中国等で減少
- ② 消費量: 11億2,549万トン(対前年度比 1.3%減)・・・中国、ブラジル等で増加、米国、EU等で減少
- ③ 期末在庫量: 3億255万トン(対前年度比 6.6%減)・・・中国、米国、メキシコ等で減少
(前月に比べブラジルで上方修正、米国で下方修正)
期末在庫率: 26.9%(対前年度 1.5ポイント減)

米(精米) : 世界の生産量は、インドで上方修正されたものの、前年度より減少する見通し。しかし、世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度より増加する見通し。

- ① 生産量: 4億9,777万トン(対前年度比 0.2%減)・・・中国、インド等で減少
(前月に比べインドで上方修正)
- ② 消費量: 4億9,454万トン(対前年度比 1.0%増)
- ③ 期末在庫量: 1億7,509万トン(対前年度比 1.9%増)・・・中国等で増加
期末在庫率: 35.4%(対前年度差 0.3ポイント増)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、前年度減産となったブラジルで史上最高となるものの、米国で単収の下方修正等により減産となること等から、前年度より減少する見通し。世界の生産量が消費量を下回るため、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- ① 生産量: 3億3,897万トン(対前年度比 5.5%減)・・・ブラジル等で増加、米国、アルゼンチンで減少
(前月に比べ米国で下方修正)
- ② 消費量: 3億5,234万トン(対前年度比 2.0%増)・・・アルゼンチン等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,521万トン(対前年度比 13.3%減)・・・米国、アルゼンチン等で減少
(前月に比べ米国で下方修正)
期末在庫率: 27.0%(対前年度差 4.8ポイント減)

大臣官房政策課食料安全保障室 西内、五十嵐 (内線3805)

世界の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2019年10月10日発表)

2019. 10

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,616.04	2,625.52	2,659.68	1.3%	3.5	2,294.7
消費量		2,596.96	2,641.75	2,663.17	0.8%	▲ 2.6	2,283.9
期末在庫量		816.62	800.38	796.90	▲ 0.4%	1.5	478.1
期末在庫率		31.4%	30.3%	29.9%	▲ 0.4	0.1	20.9%
小麦							
生産量		762.31	730.50	765.23	4.8%	▲ 0.3	660.4
消費量		741.78	736.41	755.11	2.5%	▲ 1.2	680.3
期末在庫量		283.60	277.68	287.80	3.6%	1.3	179.5
期末在庫率		38.2%	37.7%	38.1%	0.4	0.2	26.4%
粗粒穀物							
生産量		1,358.87	1,396.07	1,396.68	0.0%	0.2	1,158.5
消費量		1,372.95	1,415.90	1,413.52	▲ 0.2%	▲ 2.7	1,138.8
期末在庫量		370.68	350.85	334.01	▲ 4.8%	▲ 2.2	175.6
期末在庫率		27.0%	24.8%	23.6%	▲ 1.1	▲ 0.1	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,078.08	1,123.22	1,104.01	▲ 1.7%	▲ 0.9	898.1
消費量		1,088.10	1,140.53	1,125.49	▲ 1.3%	▲ 2.7	876.7
期末在庫量		341.34	324.03	302.55	▲ 6.6%	▲ 3.7	144.7
期末在庫率		31.4%	28.4%	26.9%	▲ 1.5	▲ 0.3	16.5%
米(精米)							
生産量		494.86	498.95	497.77	▲ 0.2%	3.6	475.8
消費量		482.24	489.44	494.54	1.0%	1.3	464.7
期末在庫量		162.34	171.85	175.09	1.9%	2.4	122.9
期末在庫率		33.7%	35.1%	35.4%	0.3	0.4	26.4%

【大豆】

項目	年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		341.62	358.77	338.97	▲ 5.5%	▲ 2.4	269.0
消費量		338.35	345.37	352.34	2.0%	▲ 1.1	265.1
期末在庫量		98.81	109.87	95.21	▲ 13.3%	▲ 4.0	58.1
期末在庫率		29.2%	31.8%	27.0%	▲ 4.8	▲ 1.0	21.9%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 10, 2019)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2019年10月10日発表)

2019.10

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20 (予想)	2019/20		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		437.43	438.36	423.03	▲ 3.5%	▲ 1.1	353.0
消費量		357.95	362.37	356.92	▲ 1.5%	0.5	317.1
輸出货量		94.57	83.39	79.77	▲ 4.3%	▲ 4.5	51.6
期末在庫量		88.76	88.58	82.56	▲ 6.8%	▲ 5.6	44.2
期末在庫率		19.6%	19.9%	18.9%	▲ 1.0	▲ 1.1	12.0%
小麦							
生産量		47.38	51.31	53.39	4.1%	▲ 0.5	61.3
消費量		29.25	30.02	31.79	5.9%	▲ 0.8	37.8
輸出货量		24.66	25.48	25.86	1.5%	▲ 0.7	27.5
期末在庫量		29.91	29.39	28.40	▲ 3.4%	0.8	19.5
期末在庫率		55.5%	53.0%	49.3%	▲ 3.7	2.6	29.9%
粗粒穀物							
生産量		384.39	379.93	363.65	▲ 4.3%	▲ 0.7	285.3
消費量		324.41	327.77	320.97	▲ 2.1%	1.3	275.5
輸出货量		67.16	54.94	50.90	▲ 7.4%	▲ 3.8	20.7
期末在庫量		57.92	57.77	52.98	▲ 8.3%	▲ 6.4	23.5
期末在庫率		14.8%	15.1%	14.2%	▲ 0.8	▲ 1.6	7.9%
とうもろこし							
生産量		371.10	366.29	350.01	▲ 4.4%	▲ 0.5	273.2
消費量		313.98	315.20	307.74	▲ 2.4%	1.5	263.0
輸出货量		61.92	52.46	48.26	▲ 8.0%	▲ 3.8	18.5
期末在庫量		54.37	53.71	48.99	▲ 8.8%	▲ 6.6	20.9
期末在庫率		14.5%	14.6%	13.8%	▲ 0.8	▲ 1.8	7.4%
米(精米)							
生産量		5.66	7.12	5.99	▲ 15.9%	0.0	6.3
消費量		4.30	4.58	4.16	▲ 9.2%	0.0	3.8
輸出货量		2.76	2.97	3.02	1.7%	0.0	3.4
期末在庫量		0.93	1.42	1.18	▲ 16.9%	0.0	1.2
期末在庫率		13.2%	18.8%	16.4%	▲ 2.4	0.6	16.1%

【大豆】

項目	年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20 (予想)	2019/20		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		120.07	120.52	96.62	▲ 19.8%	▲ 2.3	82.8
消費量		58.87	60.41	61.19	1.3%	0.2	48.6
輸出货量		58.07	47.56	48.31	1.6%	0.0	36.1
期末在庫量		11.92	24.85	12.52	▲ 49.6%	▲ 4.9	3.8
期末在庫率		10.2%	23.0%	11.4%	▲ 11.6	▲ 4.5	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 10, 2019)

「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物の価格動向 (2019年)

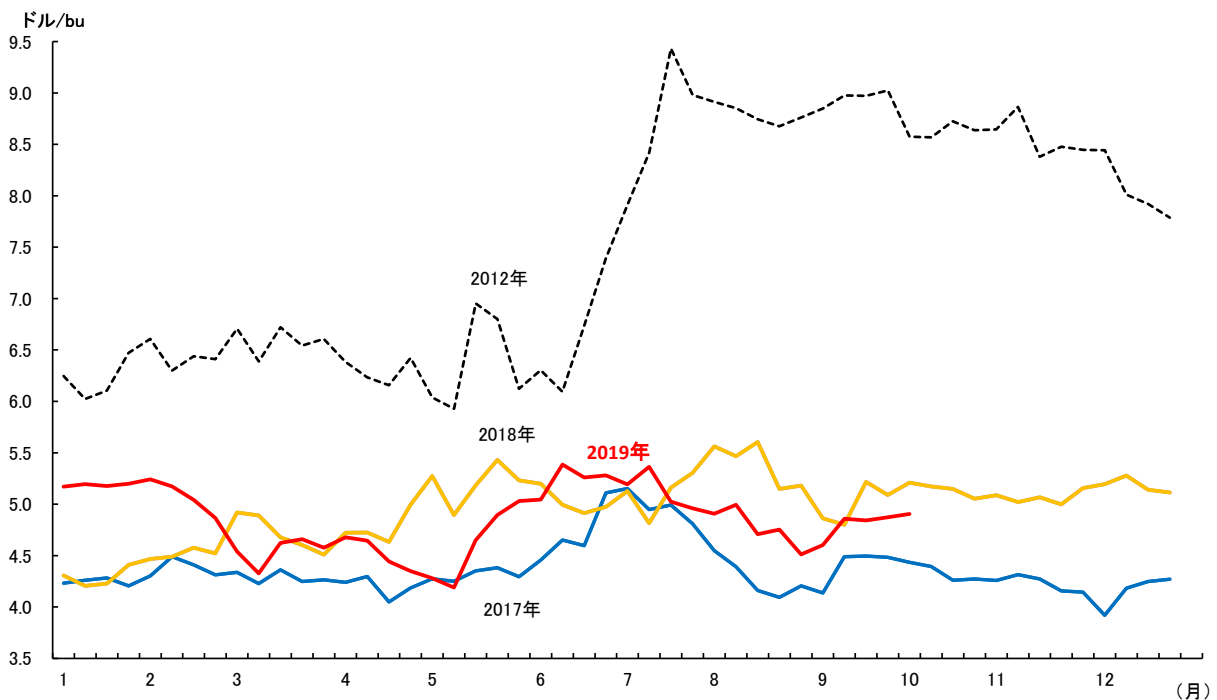
- 小麦 : 4.90 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.21 ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における10月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2019年1月以降、世界的に潤沢な供給も、ロシアの輸出量減少による米国産の輸出量の増加期待や米国主要産地での冬枯れ懸念等から価格は5ドル/bu台前半で推移したが、2月中旬以降、黒海沿岸諸国の輸出攻勢や世界の潤沢な供給等から4ドル/bu台前半に値を下げた。

3月半ばから4月初旬まで、洪水や暴風雪による米国産冬小麦の作柄悪化懸念や春小麦の作付遅延懸念等から、4ドル/bu台半ばで推移したが、4月半ば以降、米国産冬小麦の作況改善や新穀のカナダ産小麦の作付面積拡大予測等から、4ドル/bu台前半に値を下げた。

5月中旬以降、米国産地での降雨による冬小麦の品質及び単収の悪化や、春小麦の作付け遅延が懸念されたことから、6月中旬に5ドル/bu台前半に値を上げた。

その後も、大豆・とうもろこしの価格上昇や、7月の米国農務省需給報告で世界及び米国の期末在庫量が下方修正されたことから、5ドル/bu台前半で推移したものの、7月中旬以降の米国産冬小麦の収穫進展や、8月の米国農務省需給報告での米国の期末在庫量の上方修正、米国産とうもろこし価格の低下から8月下旬4ドル/bu台半ばで推移していたが、9月中旬以降、豪州産小麦の生産見通しの下方修正や、米国産小麦の輸出が好調であったこと等から上昇し、9月下旬現在、4ドル/bu台後半で推移。



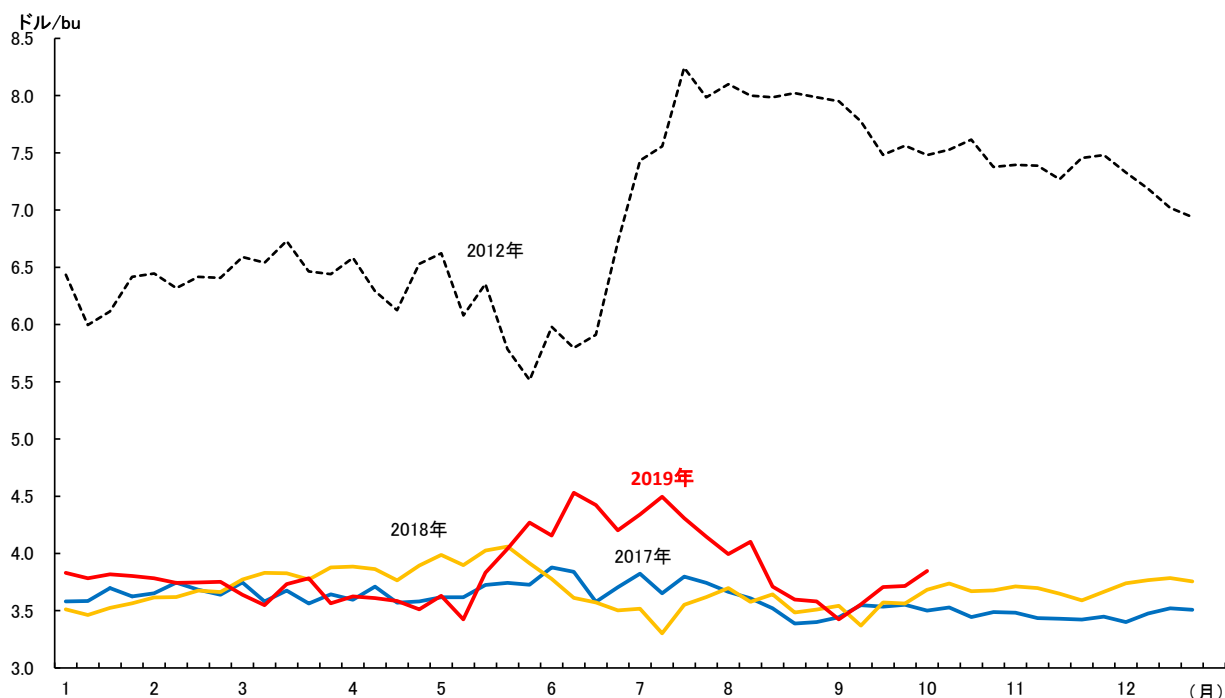
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし：3.85 ドル/bu （前年同時期の価格：3.68 ドル/bu）
（価格は、シカゴ商品取引所における10月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2019年1月以降、ブラジルでの乾燥天候による影響が懸念されたものの、2月の米国農務省需給報告で世界の期末在庫が上方修正されたこと、2019/20年度の米国産とうもろこしの作付面積が増加する見込みから、3ドル/bu 台半ばで推移。その後も米国で洪水による作付け遅延が懸念されたものの、米国の輸出検証高が市場の予想を下回ったこと、南米における豊作予測から、5月上旬までは3ドル/bu 台半ばで推移した。

5月中旬以降、米国中西部で降雨が続き、大幅な作付け遅延が生じたことから6月中旬に4ドル/bu 台半ばまで大幅に値を上げたものの、作付けの終了や6月末の米国農務省作付面積報告で市場予想を上回る作付面積となったことから、6月下旬に4ドル/bu 前半に値を下げた。その後、受粉期の高温乾燥懸念から7月半ばに4ドル/bu 半ばまで値を上げたものの、7月下旬以降の米国中西部の天候改善予報や作柄改善から3ドル/bu 台半ばに値を下げた。

8月に入り、乾燥懸念で一時値を上げたものの、米国農務省報告で作付面積が市場予想を上回ったこと、9月上旬の米国における良好な天候予測から下落し、3ドル/bu 台半ばで推移するが、9月の米国農務省需給報告で、米国産とうもろこしの生産見通しが下方修正されたこと等から上昇し、9月下旬現在、3ドル/bu 台後半で推移。



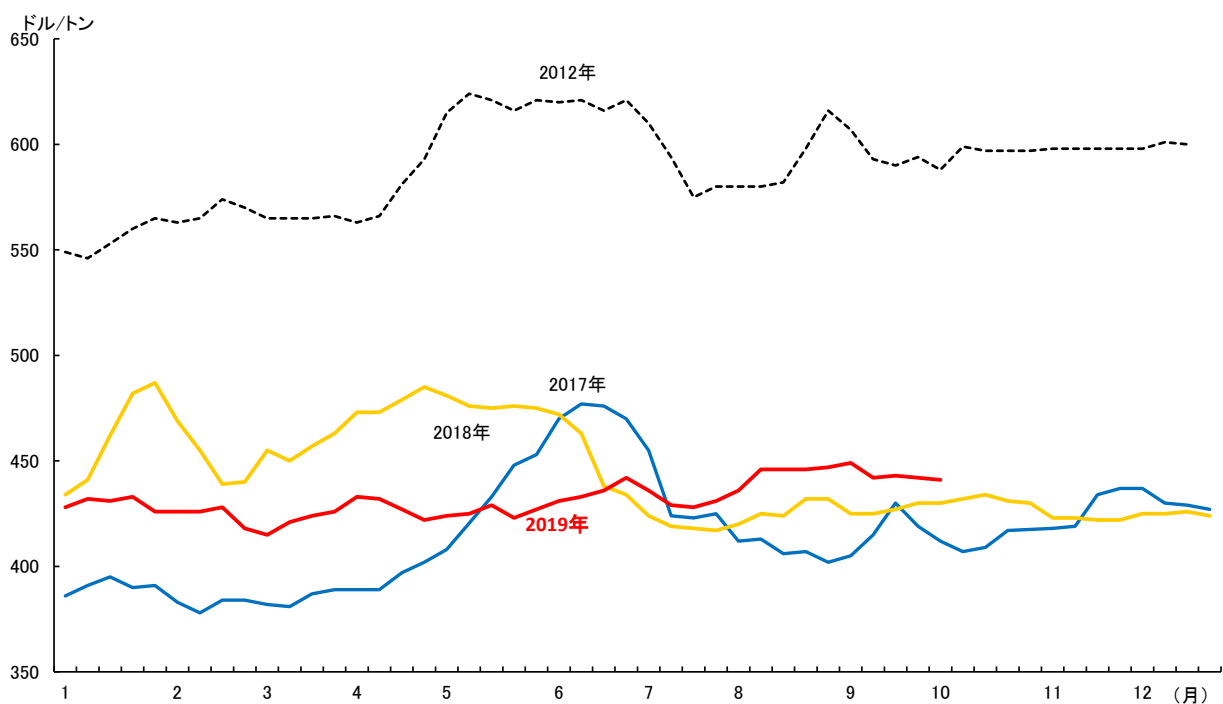
注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

- 米：441 ドル/トン （前年同時期の価格：430 ドル/トン）
（価格は、タイ国家貿易取引委員会における10月の第1水曜日のFOB価格。）

2019年1月以降、タイの収穫遅延やパーツ高等から430ドル/トン前半で推移したものの、2月中旬以降、タイ新穀（乾季作）の出回り等による国内価格の低下から、410ドル/トン台半ばで推移。

3月中旬以降、タイのパーツ高や中国の輸入見込み等から値を上げ、420ドル/トン台後半で推移。その後、タイパーツ安となったものの、アフリカ、中東向けの好調な輸出需要から、4月上旬にさらに430ドル/トン台まで上昇。4月中旬以降、タイの旧正月の祝日（ソンクラーン）で市場が閉鎖されたこと、5月上旬から始まるラマダン休暇前にアフリカ諸国が必要量をすでに確保し取引が低調となったことから値を下げ、420ドル/トン台前半で推移。

5月以降、より安価なベトナム産の新米の国際市場での出回り等により、タイ産米への需要が減退したものの、主にタイパーツ為替変動の影響から420～440ドル/トンで値が上下。7月中旬以降、タイでの長期的な降雨不足による干ばつ懸念とパーツ高の影響から値を上げ、8月下旬、440ドル/トン台後半で推移。インド、ベトナム産米に比べ、割高なタイ産米は、アフリカ諸国からの輸入需要に乏しいことから下落し、9月下旬現在、440ドル/トン台前半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%等のFOB価格(各週水曜日)
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格推移。

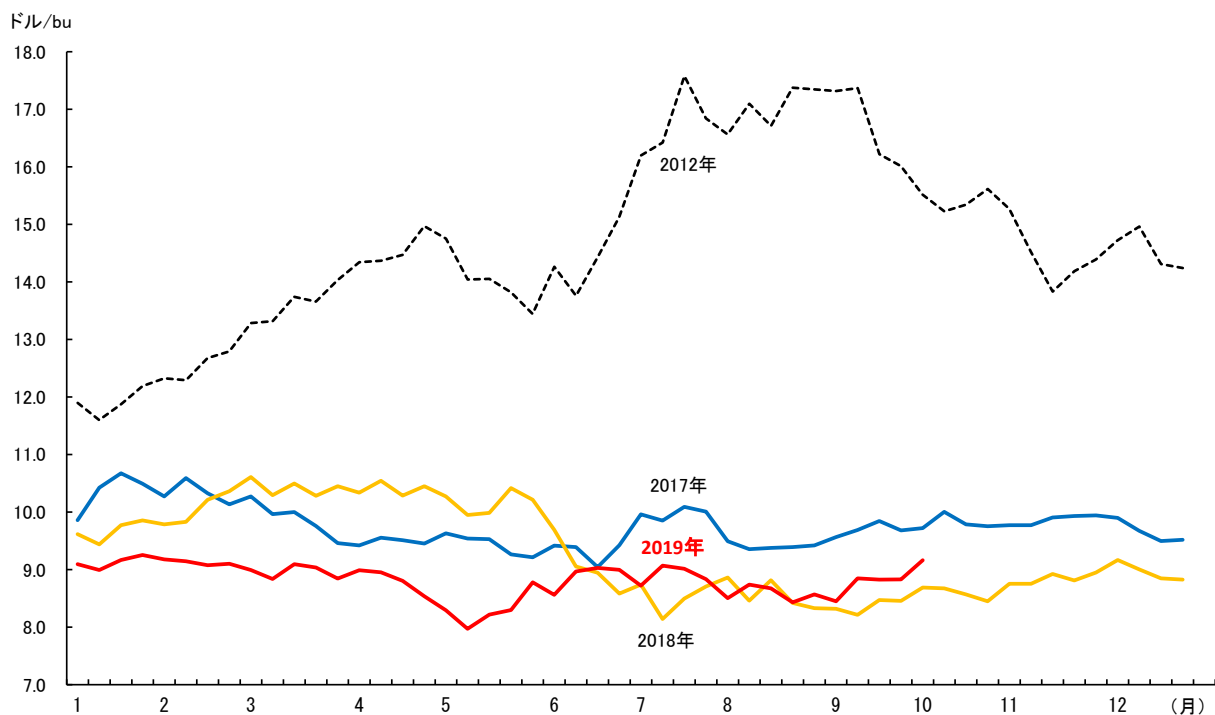
● 大豆：9.16ドル/bu（前年同時期の価格：8.69ドル/bu）
 （価格は、シカゴ商品取引所における10月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2019年1月以降、米中の通商問題を巡る不透明感から一時値を下げたものの、ブラジルでの乾燥天候による影響懸念から9ドル/bu台前半で推移。2月半ば以降、米国産の中国向け成約のキャンセルや、3月の米国農務省需給報告で世界の生産量が上方修正されたこと等から、9ドル/bu前後で推移。

4月中旬以降、米国農務省需給報告で米国の期末在庫量予測が上方修正されたことや、中国の輸入減少、南米における豊作予測から7ドル/bu台後半まで値を下げた。

5月上旬以降、米国中西部の降雨による大幅な作付け遅延や、市場予想を下回る6月末の米国農務省作付け面積報告で9ドル前後に値を上げた。その後も、7月の米国農務省需給報告での米国の生産量の下方修正から、9ドル/bu台後半～9ドル/bu前後で推移したものの、米国産大豆の輸出の伸び悩みや米国中西部の天候改善予報から7月下旬に8ドル/bu台半ばに値を下げた。

8月に入り、一時、米国の乾燥懸念から8ドル/bu台後半に値を上げたものの、その後の良好な天候予測や、とうもろこしの価格下落から8ドル/bu台半ばで推移していた。9月上旬、米中通商摩擦が不透明であることや、米国の良好な天候予測から、8ドル/bu台前半まで下落したものの、米国農務省需給報告で、米国産大豆の生産見通しが下方修正されたこと等から上昇し、9月下旬現在、8ドル/bu台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 1月
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.16	110.77
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
107.82	106.00	107.43	109.69	110.03	111.37	111.06	111.89	112.78	113.37	112.45
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
108.75	110.36	111.21	111.66	109.83	108.06	108.22	106.27	107.41		

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 1月
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	45.20
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
44.25	45.50	44.25	43.40	43.60	45.25	47.25	48.50	50.00	50.40	50.80
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
45.25	40.00	40.80	41.75	41.25	39.75	51.13	50.56	51.02		

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain
Market Indicators」
月別は、週別価格の平均値(2019年9月は、9月4日から10月1日までの週別の平均値)。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 1月
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	63.66
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
62.18	62.77	66.33	69.98	67.32	70.58	67.85	70.08	70.76	56.69	49.98
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
51.55	54.98	58.17	63.87	60.87	54.71	57.55	54.84	57.03		

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和元年9月, 120頁
但し、2019年9月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status
Report」の週別価格(9.2~9.27)の平均値。